

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 2 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200015		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム若紫の家		
所在地	広島市西区己斐中3丁目53-14 (電話) 082-272-2111		
自己評価作成日	令和3年11月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200015-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年2月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎日、ラジオ体操と食事前の嚥下体操を行い、必要であれば個別の訓練を行い、ADLの低下予防に努めている。又週1回個別、集団レクリエーション、散歩等行っている。町内行事としては毎年、地域の夏祭りに参加させて頂いており、又外出支援に力を取り入れており御本人が行きたい場所望まれる事等お聞きし社用車等活用し車椅子の方でも気軽に外に出れる機会を増やしている。二か月に一回の訪問理美容でおしゃれを楽しんでいる。食事面では、管理栄養士の指導の下に栄養バランスの取れた食事を皆様に提供しており、栄養面に気を付け美味しく召し上がって頂けるよう盛り付けの工夫をしたり買い物支援で嗜好品等購入し食事を楽しめるようにしている。医師による毎週(日、祝)の往診、看護師、医療面での連携も取れており、緊急時には速やかに対応出来る体制を整えている。また、近隣には同系列のホームもあり柔軟な対応が可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念を基に、毎月目標を掲げ、日々の利用者支援に向けて取り組んでいる。利用者の穏やかな暮らしと共に、系列事業所との連携を図りながら、利用者の望むことを実現できるように支援をしている。防災訓練や、近隣の「子ども110番の家」に指定され、地域ぐるみの安全確保に取り組んでいる。最近の特徴的な取り組みとして、新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、毎週水曜日に管理者会議を行い、事業所内での困りごとをその都度解消しながら努めている。外出自粛の中でも散歩など行い、外気浴、季節を感じる取り組みをしている。面会制限がある中で、毎月担当職員による手紙、電話など近況報告を家族に対して行っている。医療面に関して、医療機関の訪問診療、訪問看護、緊急時対応など、24時間連携体制が構築されている。それらの特性を活かした医療連携に特に力を入れている。

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人全体、事業所独自の理念を掲げており、立場や経験に関わらず、毎朝の申し送り時に全員で理念を読み上げ意識付け、実践につながるよう取り組んでいる。又ホーム独自の月間目標を毎月定めており毎月ミーティング時に反省、改善を行っている。	ノーマライゼーションの確立をコアな信条に、事業所独自の理念・月間目標を定め、利用者に寄り添う支援や『笑顔と挨拶』のあるケアに努めるよう職員間で意識統一を図っている。毎朝の理念唱和と共に、毎月ミーティングで振り返りを行い、日々の実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時には挨拶を交わしたり、地域住民の一員として町内会に参加しており、回覧板を通じて地域活動に参加している。毎年近くの小学校で行われる夏祭りやフジハイツの納涼祭に参加して、見物場所を提供して頂いたり、役員の方々にも支えて頂いている。また近隣の子ども110番の家の指定にもされている。	町内会に加入し、日常の挨拶や子供みこしの来訪など自然な繋がりを大切にしている。以前、町内会長の組の長を担い、事業所を集合場所に指定し、地域の防災訓練に加え、町内清掃に参加している。近隣の子ども110番の家に指定され、地域ぐるみの安全確保に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂いていけるよう努めている。通勤、散歩中などに認知症に関する相談が見られる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族や町内役員の参加を促し、運営推進会議を通じて施設取組みの報告を行い、意見を頂き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。報告や情報のみに留まらず、率直な意見を貰い、町内行事の参加、サービス向上に具体的に生かして行く事で改善の取組みを行っている。又参加が難しい御家族様や役員の方等にも電話で意見を頂いている。	現状下では当会議を書面にて行い、会議前に、メンバーに事業所の取り組み状況を報告し、要望・助言などをフィードバックする体制を整え、そこでの意見をサービスの質の向上に繋げている。事業所で屋台を出店する案など地域交流についても積極的な取り組みを講じている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	情報共有出来るように、介護保険事業指導係や区役所の介護保険担当者、生活課等に運営やサービス内容や苦情、相談を積極的に伝え、疑問に思った事は問い合わせし、協力関係を築いている。入居者の介護保険の手続きやケアの問題、記録などを話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。	主に管理者がパイプ役となって、事故報告書の提出、必要時には相談・手続きなどで密に連携し、職員が区役所窓口に出向き信頼関係を結ぶほか、介護保険課・生活課などの個別相談と共に情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>適正化委員会の開催、定期的な研修会や勉強会を行い、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を職員全員が理解している。見守り方法を徹底し、外出しそうな様子が見られたら制止するので無くさりげなく声をかけたり、一緒に散歩に行く等安全面に配慮して鍵をかけずに自然な暮らしを支援している。また、SECOMを導入しており、目の届かない場所でも察知できるようにしている。</p>	<p>研修の実施、言葉による抑制も含め身体拘束をしないケアを実践している。その適正化のための指針や3カ月毎の身体拘束適正化委員会でのケース検討など職員間で更に意識を高めている。民間会社の防犯システムを導入しており、居室窓などにセンサーを設置して利用者を守る支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止についての研修等があれば、積極的に参加して、他の職員が理解浸透出来るように勉強会や月1回ミーティングを実施している。職員全員で早期発見・防止を徹底している。管理者は職員の疲労、ストレスがサービスに影響しないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、利用者、家族等に制度について情報提供を行っている。機会があれば外部研修に参加し、利用者の支援に結び付けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には必ず内部見学をして施設のことをよく知って頂き、納得した上で入居して頂いている。契約については時間をかけて丁寧に説明を行い、特に利用料金やリスク、重度化、看取りについての対応方針などについては、事前に詳しく説明をし、同意を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口を設置しており、ご家族には定期的な電話連絡、毎月の手紙や訪問時に利用者の様子を伝え、信頼関係を築き、御家族面会時等には必ず声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。利用者には日頃のコミュニケーションの中で意見や要望を集め、職員全体で把握、早期対処に努めている。意見や要望は随時、管理者・職員の対応策と共に提示し、運営へ反映している。</p>	<p>電話や行事の写真、職員からの一言コメントを添えて、『若紫の家新聞』便りに載せて利用者が和やかに過ごす姿を伝えコミュニケーションを図っている。何でも話し合える雰囲気づくりや訪れやすい環境整備に心がけ、家族の貴重な意見を伺い改善策に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りを活用したり、日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。意見が言いにくい場合は個別に面談を行い共に問題解決に努めている。また、月一回のミーティングや勉強会で発表の場を設け、職員の意見を聞くようにしている。管理者を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。	働きやすい職場づくりの方針により、ユニット毎に管理者がいる。毎日1日2回の申し送り、毎月のミーティング時など、普段から何でも話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。毎月の個別面談、有休取得、資格取得制度も設け職員のモチベーション維持や意識向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修に参加したり、職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に関しては、経験ある職員が付き、利用者との関わり方の指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者や職員は事業所外の研修や同系列の勉強会に参加して質の向上を目指し、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り、ケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、主治医の診療情報提供書、サマリー等をもとに状態を把握し、本人、家族に話を聞き、身体的、精神的両面を理解し、積極的に遠慮の無い関係が築けるようコミュニケーションを密に図っている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学時には家族の悩み、苦勞等、これまでの敬意についてゆっくり聞くようにしている。家族が困っている事、不安な事をいつでも相談して頂けるよう、日頃から家族とのコミュニケーションを密に取っている。面会時には近況を伝え、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら、出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側、支援される側という意識を持たず、人生の先輩であるという考えを共有して、共に支え合える関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には日頃の状態をこまめに報告するとともに、毎月の手紙でも日々の暮らしの様子を伝え、情報共有に努めている。本人を一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの生活の延長線上であるように今までの関係性を断ち切らないように電話や手紙、はがきを使用してつながりを継続できるよう支援している。昔からの友人が訪問してきたり、お墓参りや美容室、以前通院していた医療機関等に継続して行かれている入居者様もいる。また、家族の協力もあり、外食など行きたい場所にも出かけておられる。	利用開始時に必要性を説明し、本人・家族に馴染みの人が居ないか確認している。長年の付き合いや懐かしい関係性を継続できるよう、日々の支援に組み込み支援している。知人への年賀状を利用者が自筆で出すなど、かけがえない繋がりを大切に生活を送っている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても今までの暮らしの継続性が損なわれないように、支援の内容や注意が必要な点について情報提供を行い、細かい連携を心掛けている。相談窓口をつくり、関係性を大切にしている。その後の支援に応じる姿勢を示している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時より御家族や友人の方等に生活歴等の方が今までどんな暮らしをされていたかお聞きしそれを念頭に置くようにしている。日頃から全職員でコミュニケーションを密にとるよう努め、より良い信頼関係を築き、言葉を集め、利用者の言動、思いや希望を把握しスタッフで共有している。言葉の表出困難、意思疎通が難しい方は生活記録、朝夕の申し送り時に情報を得たり御家族の方からも情報を得ている。	利用者一人ひとりの話を聞くことに徹し、常に利用者、相手の立場になって物事を考えている。さり気ない会話や仕草・表情などから思いを受け止め、記録に記し職員間で共有している。 『尾道の実家に帰りたい、三次へお墓参りに行きたい』意向があれば、利用者の思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、利用者の協力のもとで、センター方式を作成し、今までの生活環境や入居前情報（紹介状、サマリー、生活歴）を職員全員が把握している。また、介護計画を活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに職員全員が把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や御家族の思いや意見をもとに、課題を職員全員から聴取し、医療的、栄養面では往診時主治医から聴取し又看護士、栄養士などから意見を伺い、原案を作成しサービス担当者会議を開催し本人が実行できる目標を立て、毎月出来ているか評価し3ヶ月おきにモニタリングをして評価を行っている。</p>	<p>本人・家族・主治医と日々の情報を基に、ニーズに沿った計画作成をしている。毎日の実施状況を確認しながら3カ月毎のモニタリングで見直しをしている。グランドピアノが設置されている環境から、利用開始前にピアノを弾いていた方は継続している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態変化は日々の申し送りで確認し、個別ファイルに記録している。また、センター方式を活用したり、ご家族の思いや意見を聞き、重要事項については申し送りノートを活用し、職員間で共有しながらケアしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に対応するニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者と家族が安心して暮らし続けられるように状況や要望に向き合い、臨機応変に対応している。また、その方の状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来るなどの対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう各機関等や町内会、ボランティアを活用し、意見交換できるよう支援している。町内のお店や理美容院を利用して関係を強化している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居後も主治医の変更を勧めたりせず、御家族本人の希望する医療機関へ受診している。また必要時受診の付き添いを行い毎回普段の様子や変化を密に伝えるようにしている。医師の訪問診療、24時間連携受け入れ病院(福島生協病院)、各連携医療機関確保(外科、内科、皮膚科、歯科)により適切な医療が受け入れるよう支援している。</p>	<p>週4回の訪問診療があり、週1回の訪問看護や医療機関との連携で緊急時を含め迅速な対応を行なっている。福祉車両を活用した通院同行支援も職員が担い、その内容など家族と情報共有している。感染症予防に留意し、服薬管理も含め利用者の体調管理に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約しており、日常の健康面や医療面について相談、助言、対応を行ってもらっている。介護職員は些細な変化等あれば看護職員への連絡体制を取り、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族とも回復状況などの情報交換しながらスムーズな退院につながるよう家族・スタッフで話し合い支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。対応が可能なこと・困難なこと・不安なこと等を提携病院や協力医療機関と情報を交換しながら支援している。本人や家族の意向を踏まえ安心して納得した最期を迎えられるように主治医を含めて随時意思確認をしながら取り組んでいる。	終末期に向けた指針があり、重度化した場合は家族・関係者とその都度よく話し合い、医療体制の整う中チームアプローチによる温かみのある支援に取り組んでいる。系列の協力医療機関への移設の検討や入退院時の支援を含め、本人・家族の意向に沿った方向性に配慮しつつ看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr・原田Dr・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消火器や避難経路の確保など、設備点検を定期的に行い、消防署の協力を得て、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、町内会を通じて災害時の避難場所の確認を行い、災害などが起きたときのご協力を得ている。又、毎年消防大会に参加し災害時に備えて意識を高めている。又同系列施設との連携を取り災害時助け合えるよう信頼関係を深めている。	年2回消防署員立ち会いのもと、防災避難訓練を実施し、職員間で意識を深めている。正しい避難場所や経路の確認と共に地域を交えた減災対策に取り組む、安全確保への強化に努めている。日頃から火元を出さないように事業所内の掃除や整理整頓に力を入れている。	減災への対策として、夜間想定訓練を年1回の実施したり、備蓄の準備が必要です。飲料水は準備しているが、食糧やトイレ、寒さをしのげる物品などを準備することが望まれます。事業所にスペースの確保が難しい場合は、近隣の系列事業所との協同により準備することを期待します。

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の誇りを傷付けたり、プライバシーを損ねないように、年長者として敬意を払い、尊厳ある姿を大切にすることを心掛けている。援助の際は本人の気持ちを考えて、目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい声掛けをするように心掛けている。また、個人情報の保護についても外部に漏れないように全職員が徹底している。	『さん付け、居室内に入る時はノックをする』など日々の生活サイクルにおいて利用者の尊厳を護り、言葉掛けなど礼節をわきまえた対応に心がけている。気になる事柄があれば毎月のミーティング時に注意喚起している。電話対応の基本マニュアルを整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に合わせて声を掛け、些細なことでも本人が決めるように支援している。意思表示が困難な方でも表情や反応を注意深く観察しながら、自己決定できるように努めている。難聴の方には、ホワイトボード等を用いて、曖昧な伝わり方にならないように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を心掛けている。	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性・希望・生活暦において本人の好みや意向を尊重し、季節感や清潔感あるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。二ヶ月に一回の訪問理美容で希望に合わせたカットや毛染めを行い、希望によっては、お化粧品をし写真撮影を行うなど連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みや苦手なものを把握し、日常のコミュニケーション等から献立を作成している。旬な野菜、彩り、盛り付けを工夫しながら食事を提供しており、利用者と職員と一緒に食事を味わいながら楽しめるよう支援している。また、1日の大切な活動のひとつとして、食後には後片付け等を入居者と一緒に行っている。又外出支援の一環として入居者様の誕生日には外食を取り入れ楽しんで頂いている。	以前は手作りで提供していたが、真空調理された食材が事業所に届くシステムに変更になり、買い物支援など充実を図っている。盛り付けや後片付けなど役割として利用者も手伝い、家庭的な雰囲気の中で職員と共に行なっている。誕生日や行事食にも楽しめる工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食事以外に水分補給を行い、確実に摂取して頂けるよう声掛けを行っている。食事に関しても、一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりと対応をしている。また、管理栄養士、栄養士を中心に献立の栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	イソジンを使用してうがいと歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は、日常的に支援している。また、利用者によってはガーゼやスポンジを使用して、自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行っている。昼食前には嚥下体操を行い、嚥下障害による肺炎の防止に努めている。また、治療が必要であれば、歯科往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を使用して一人ひとりの時間、パターンに合った、声掛けを実施している。身体状況に応じて出来る所は見守りを行い、自尊心に配慮し、さりげなくカバーしている。又毎日歩行訓練等実施し身体機能の維持、向上を目指しトイレに行けるよう支援している。	排泄パターンやタイミングを見計らいトイレ誘導を行い、トイレに座る生活習慣を基本したケアに取り組んでいる。なるべく紙おむつを使用しないように、リハビリパンツや適切なパッド対応に努めている。個々に合わせた排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事・排泄・活動状況等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また、毎日のラジオ体操と水分補給の徹底し、必要であれば個々の状態に合わせた使用量、頻度で下剤や浣腸なども検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせず利用者の希望に合った曜日、時間帯で入浴を支援している。また、ゆっくり浸かりたい人には順番を後に回すなどの工夫もしている。入浴前にはバイタルチェックをして安全に楽しみの時間となるように健康面に努めている。不安や恐怖心を持たないように職員も一緒に入り心情を察した配慮を行っている。また、異性に対して抵抗がある場合は、同性の職員が対応するようにしている。又、シャンプーやリンスなどは以前から利用していた物を使われたり入浴剤を使用したり個々で楽しまれている。	週2~3回の午前入浴をしている。『一番風呂が入りたい、歌を歌いたい、足浴をして欲しい、同性介助して欲しい』など希望があれば叶えるように支援している。時には柚子などの季節の香りを楽しんだり使い慣れたシャンプー剤の使用で、職員との会話を交えたリラックスタイムづくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>本人にとって自然な生活リズムが整えられるよう日中の活動を促し、心地よく眠りにつけるよう努めている。また、眠剤を服用されている方に関しては、睡眠状況を把握し、家族や主治医とも相談しながら調整に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員が個々の内服薬、効能を把握できるようにファイルを作成している。また、服薬による副作用がないか、検温表を確認しながら確認を行っている。服薬時には本人に手渡しし、きちんと服用出来るよう支援している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>センター方式を活用して、一人ひとりの生活歴を把握し、潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして自分らしく暮らせるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出が困難と決め付けず、重度の方でも外出出来るように、介護タクシーを使用したり又社用車を使って積極的に外出する機会を設けている。ご家族の方にも協力して頂き、希望に沿った支援を行っている。戸外への散歩、美容院、また、お花見、夏祭り等の季節行事や外出希望者には職員が同行して支援を行っている。</p>	<p>外気に触れる取り組みとして、散歩など出来る限り外出の機会を設ける工夫に努めている。以前は、平和公園や季節毎の景色を楽しむドライブなど福祉車両を活用し、家族との個別外出も思い出づくりの一環となっている。職員と尾道に訪れ、個人の願いを叶えた事もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人の安心や満足に向けて、少額でも所持金を持って頂くように家族と相談しながら支援している。また、外出時には自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、年賀状を出すための支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。また、意志疎通が困難な方に家族、友人等から手紙が届いた場合は職員が読み聞かせをしてお伝えしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設全体が白を基調としたおしゃれな雰囲気です。又電球は暖色系の物を取り入れ、暖かみのある物にしている。リビングは風通しが良く、山や緑が見えて季節を感じやすい。台所は利用者が安心して使用出来るようになっており個々の役割を決めお手伝い等して頂いている。トイレは車椅子でも入りしやすい大きさになっている。	白を基調としたおしゃれな雰囲気です。グランドピアノが設置され家具も欧風に揃えている。ベランダからは山や街の様子が一望できリビングは風通しが良い。食事時には正しい姿勢保持を図るために、車いすから椅子に移乗している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂や居間は一体的な造りになっており、他の入居者と自由に団欒できるようソファや椅子を置いている。気の合う入居者同士がくつろげる空間、個室で一人になれる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は新しい品物をそろえて頂くのではなく、利用者が安心して過ごせるよう、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂けるようにご家族、本人に説明をしている。本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い雰囲気、居室作りを行っている。	居室入口に表札を掲げ識別しやすく工夫している。仏壇や冷蔵庫、人形、家族写真など普段の使い慣れた身の回り品を持ち込み、落ち着いて過ごせるよう個性を活かした雰囲気づくりに心がけている。掃除や整理整頓に留意し、清潔感のある居室となるよう職員間で努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りや階段に滑り止め等を設置しおり、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は職員で話し合い、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		

V アウトカム項目(A棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	●	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	●	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	●	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	●	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	●	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体、事業所独自の理念を掲げており、立場や経験に関わらず、毎朝の申し送り時に全員で理念を読み上げ意識付け、実践につながるよう取り組んでいる。又ホーム独自の月間目標を毎月定めており毎月ミーティング時に反省、改善を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時には挨拶を交わしたり、地域住民の一員として町内会に参加しており、回覧板を通じて地域活動に参加している。毎年近くの小学校で行われる夏祭りやフジハイツの納涼祭に参加して、見物場所を提供して頂いたり、役員の方々にも支えて頂いている。また近隣のお子様の110番の家の指定にもされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂いていけるよう努めている。通勤、散歩中などに認知症に関する相談が見られる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見やサービスをサービス向上に活かしている。	家族や町内役員の参加を促し、運営推進会議を通じて施設取組みの報告を行い、意見を頂き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。報告や情報のみならず、率直な意見を貰い、町内行事の参加、サービス向上に具体的に生かして行く事で改善の取り組みを行っている。又参加が難しい御家族様や役員の方等にも電話で意見を頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	情報共有出来るように、介護保険事業指導係や区役所の介護保険担当者、生活課等に運営やサービス内容や苦情、相談を積極的に伝え、疑問に思った事は問い合わせし、協力関係を築いている。入居者の介護保険の手続きやケアの問題、記録などを話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会の開催、定期的な研修会や勉強会を行い、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を職員全員が理解している。見守り方法を徹底し、外出しそうな様子が見られたら制止するので無くさりげなく声をかけたり、一緒に散歩に行く等安全面に配慮して鍵をかけずに自然な暮らしを支援している。また、SECOMを導入しており、目の届かない場所でも察知できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止についての研修等があれば、積極的に参加して、他の職員が理解浸透出来るように勉強会や月1回ミーティングを実施している。職員全員で早期発見・防止を徹底している。管理者は職員の疲労、ストレスがサービスに影響しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、利用者、家族等に制度について情報提供を行っている。機会があれば外部研修に参加し、利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ず内部見学をして施設のことをよく知って頂き、納得した上で入居して頂いている。契約については時間をかけて丁寧に説明を行い、特に利用料金やリスク、重度化、看取りについての対応方針などについては、事前に詳しく説明をし、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を設置しており、ご家族には定期的な電話連絡、毎月の手紙や訪問時に利用者の様子を伝え、信頼関係を築き、御家族面会時等には必ず声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。利用者には日頃のコミュニケーションの中で意見や要望を集め、職員全体で把握、早期対処に努めている。意見や要望は随時、管理者・職員の対応策と共に提示し、運営へ反映している。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りを活用したり、日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。意見が言いにくい場合は個別に面談を行い共に問題解決に努めている。また、月一回のミーティングや勉強会で発表の場を設け、職員の意見を聞くようにしている。管理者を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修に参加したり、職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に関しては、経験ある職員が付き、利用者との関わり方の指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者や職員は事業所外の研修や同系列の勉強会に参加して質の向上を目指し、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り、ケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、主治医の診療情報提供書、サマリー等をもとに状態を把握し、本人、家族に話を聞き、身体的、精神的両面を理解し、積極的に遠慮の無い関係が築けるようコミュニケーションを密に図っている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学時には家族の悩み、苦勞等、これまでの敬意についてゆっくり聞くようにしている。家族が困っている事、不安な事をいつでも相談して頂けるよう、日頃から家族とのコミュニケーションを密に取っている。面会時には近況を伝え、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら、出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側、支援される側という意識を持たず、人生の先輩であるという考えを共有して、共に支え合える関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には日頃の状態をこまめに報告するとともに、毎月の手紙でも日々の暮らしの様子を伝え、情報共有に努めている。本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの生活の延長線上であるように今までの関係性を断ち切らないように電話や手紙、はがきを使用してつながりを継続できるよう支援している。昔からの友人が訪問して来たり、お墓参りや美容室、以前通院していた医療機関等に継続して行かれている入居者様もいる。また、家族の協力もあり、外食など行きたい場所にも出かけておられる。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても今までの暮らしの継続性が損なわれないように、支援の内容や注意が必要な点について情報提供を行い、細かい連携を心掛けている。相談窓口をつくり、関係性を大切にしている。その後の支援に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時より御家族や友人の方等に生活歴等の方が今までどんな暮らしをされていたかお聞きしそれを念頭に置くようにしている。日頃から全職員でコミュニケーションを密にとるよう努め、より良い信頼関係を築き、言葉を集め、利用者の言動、思いや希望を把握しスタッフで共有している。言葉の表出困難、意思疎通が難しい方は生活記録、朝夕の申し送り時に情報を得たり御家族の方からも情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、利用者の協力のもとで、センター方式を作成し、今までの生活環境や入居前情報（紹介状、サマリー、生活歴）を職員全員が把握している。また、介護計画を活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに職員全員が把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や御家族の思いや意見をもとに、課題を職員全員から聴取し、医療的、栄養面では往診時主治医から聴取し又看護師、栄養士などから意見を伺い、原案を作成しサービス担当者会議を開催し本人が実行できる目標を立て、毎月出来ているか評価し3ヶ月おきにモニタリングをして評価を行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態変化は日々の申し送りで確認し、個別ファイルに記録している。また、センター方式を活用したり、ご家族の思いや意見を聞き、重要事項については申し送りノートを活用し、職員間で共有しながらケアしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者と家族が安心して暮らし続けられるように状況や要望に向き合い、臨機応変に対応している。また、その方の状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来るなどの対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう各機関等や町内会、ボランティアを活用し、意見交換できるよう支援している。町内のお店や理美容院を利用して関係を強化している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居後も主治医の変更を勧めたりせず、御家族本人の希望する医療機関へ受診している。また必要時受診の付き添いを行い毎回普段の様子や変化を密に伝えるようにしている。医師の訪問診療、24時間連携受け入れ病院(福島生協病院)、各連携医療機関確保(外科、内科、皮膚科、歯科)により適切な医療が受け入れるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約しており、日常の健康面や医療面について相談、助言、対応を行ってもらっている。介護職員は些細な変化等あれば看護職員への連絡体制を取り、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族とも回復状況などの情報交換しながらスムーズな退院につながるよう家族・スタッフで話し合い支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。対応が可能なこと・困難なこと・不安なこと等を提携病院や協力医療機関と情報を交換しながら支援している。本人や家族の意向を踏まえ安心して納得した最期を迎えられるように主治医を含めて随時意思確認をしながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr・原田Dr・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消火器や避難経路の確保など、設備点検を定期的に行い、消防署の協力を得て、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、町内会を通じて災害時の避難場所の確認を行い、災害などが起きたときのご協力を得ている。又、毎年消防大会に参加し災害時に備えて意識を高めている。又同系列施設との連携を取り災害時助け合えるよう信頼関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の誇りを傷付けたり、プライバシーを損ねないように、年長者として敬意を払い、尊厳ある姿を大切にする対応を心掛けている。援助の際は本人の気持ちを考えて、目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい声掛けをするように心掛けている。また、個人情報の保護についても外部に漏れないように全職員が徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に合わせて声を掛け、些細なことでも本人が決めるように支援している。意思表示が困難な方でも表情や反応を注意深く観察しながら、自己決定できるように努めている。難聴の方には、ホワイトボード等を用いて、曖昧な伝わり方にならないように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性・希望・生活暦において本人の好みや意向を尊重し、季節感や清潔感あるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。二ヶ月に一回の訪問理美容で希望に合わせたカットや毛染めを行い、希望によっては、お化粧品をし写真撮影を行うなど連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みや苦手なものを把握し、日常のコミュニケーション等から献立を作成している。旬な野菜、彩り、盛り付けを工夫しながら食事を提供しており、利用者と職員と一緒に食事を味わいながら楽しめるよう支援している。また、1日の大切な活動のひとつとして、食後には後片付け等を入居者と一緒に行っている。又外出支援の一環として入居者様の誕生日には外食を取り入れ楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食事以外に水分補給を行い、確実に摂取して頂けるよう声掛けを行っている。食事に関しても、一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりと対応をしている。また、管理栄養士、栄養士を中心に献立の栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	イソジンを使用してうがいと歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は、日常的に支援している。また、利用者によってはガーゼやスポンジを使用して、自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行っている。昼食前には嚥下体操を行い、嚥下障害による肺炎の防止に努めている。また、治療が必要であれば、歯科往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を使用して一人一人の時間、パターンに合った、声掛けを実施している。身体状況に応じて出来る所は見守りを行い、自尊心に配慮し、さりげなくカバーしている。又毎日歩行訓練等実施し身体機能の維持、向上を目指しトイレに行けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事・排泄・活動状況等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また、毎日のラジオ体操と水分補給の徹底し、必要であれば個々の状態に合わせた使用量、頻度で下剤や浣腸なども検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせず利用者の希望に合った曜日、時間帯で入浴を支援している。また、ゆっくり浸かりたい人には順番を後に回すなどの工夫もしている。入浴前にはバイタルチェックをして安全に楽しみの時間となるように健康面に努めている。不安や恐怖心を持たないように職員も一緒に入り心情を察した配慮を行っている。また、異性に対して抵抗がある場合は、同性の職員が対応するようにしている。又、シャンプーやリンスなどは以前から利用していた物を使われたり入浴剤を使用したり個々で楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>本人にとって自然な生活リズム が整えられるよう日中の活動を 促し、心地よく眠りにつけるよ う努めている。また、眠剤を服 用されている方に関しては、睡 眠状況を把握し、家族や主治医 とも相談しながら調整に努め ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努め ている。</p>	<p>職員が個々の内服薬、効能を把 握できるようにファイルを作成 している。また、服薬による副 作用がないか、検温表を確認し ながら確認を行っている。服薬 時には本人に手渡しし、きちん と服用出来るよう支援してい る。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>センター方式を活用して、一人 ひとりの生活歴を把握し、潜在 している記憶や出来る力を最大 限に活かして自分らしく暮らせ るように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。</p>	<p>外出が困難と決め付けず、重 度の方でも外出出来るように、 介護タクシーを使用したり又社 用車を使って積極的に外出する 機会を設けている。ご家族の方 にも協力して頂き、希望に沿 った支援を行っている。戸外へ の散歩、美容院、また、お花 見、夏祭り等の季節行事や外 出希望者には職員が同行して 支援を行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。</p>	<p>本人の安心や満足に向けて、少 額でも所持金を持って頂くよう に家族と相談しながら支援し ている。また、外出時には自 分の財布からお金を出すことで 社会性の維持につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、年賀状を出すための支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。また、意志疎通が困難な方に家族、友人等から手紙が届いた場合は職員が読み聞かせをしてお伝えしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設全体が白を基調としたおしゃれな雰囲気です。又電球は暖色系の物を取り入れ、暖かみのある物にしている。リビングは風通しが良く、山や緑が見えて季節を感じやすい。台所は利用者が安心して使用出来るようになっており個々の役割を決めお手伝い等して頂いている。トイレは車椅子でも出入りしやすい大きさになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂や居間は一体的な造りになっており、他の入居者と自由に団欒できるようソファや椅子を置いている。気の合う入居者同士がくつろげる空間、個室で一人になれる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は新しい品物をそろえて頂くのではなく、利用者が安心して過ごせるよう、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂けるようにご家族、本人に説明をしている。本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い雰囲気、居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りや階段に滑り止め等を設置しおり、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は職員で話し合い、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		

V アウトカム項目(B棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	●	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	●	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	●	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	●	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	●	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム若紫の家

作成日 令和4年3月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策	災害で落ち着いて行動、状況判断出来る環境を整える	夜間を想定した避難訓練も取り入れる又備蓄の重要性を話し合い法人全体で取り組めるよう進めていく	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。